

2002年6月7日に、第35回PPIフォーラムを開催し、摂南大学教授田中直人氏をお迎えし、「高齢社会に向けた住環境デザインの方向性」をテーマに御講演いただきました。当日はこれまでの高齢者居住環境の研究テーマの変遷をふりかえりつつ、都市交通環境や地域福祉施設、健康・文化・レクリエーション施設等の社会基盤整備の必要性を示されました。また、近年の脱施設化や施設の小規模化への動き、地域とのつながりの重要性や住居系施設の必要性と課題についても説明されました。最後に、高齢社会の住環境について「人にやさしい安全な都市施設」「安心して住み続けられる住宅」「保健福祉サービスと医療」「良好な地域コミュニティ」「身近な情報提供体制」を備えることによる『人にやさしい福祉と安心のまちづくり』の実現を提案されました。次回第36回PPIフォーラムは10月末頃を予定。御関心の方は御連絡ください。



フォーラム風景

講演会・海外視察

《1》講演レポート

去る2002年3月11日、「住宅産業フォーラム21」（財団法人 大阪科学技術センターの地域開発委員会のもとに設置されている組織で、座長は巽和夫京都大学名誉教授、副座長は柏原士郎大阪大学大学院教授）の依頼で、PPI所長三好が「ニュータウンの持続的発展について - 具体的事例を交えて」と題して、多数のスライドを交えて講演を行いました。《2》レッチワース・ガーデンシティとハーローニュータウンを公式訪問・視察

2001年夏に引き続き、2002年7月10日～16日、PPI所長三好は、今一緒にプロジェクトを進めている阪急彩都開発株式会社 中村社長、植松部長をはじめとするプロジェクト関係者と共にレッチワース・ガーデンシティとハーローニュータウン等（共にイギリス）を公式訪問すると共に、十分な時間をかけての視察を行いました。7月11日にはIPH C（International Planning History Conference）2002で阪急彩都・中村社長が講演。阪急彩都プロジェクトを国際的に情報発信されました。また、ハーローニュータウンは三好が約30年前に海外交換技術学生として約3ヶ月間滞在・研修を受けたところとあって、再訪は感激ものだったようです。



阪急彩都開発株式会社・中村社長の講演の様子



約30年前に三好が滞在したオールド・ハーローの様子

《3》講演予定

10月25日第11回民間住宅建替セミナー（午後1時30分～、大阪市立住まい情報センター3階ホール）にて、「木造密集市街地のまちづくり - 大阪市福島区野田地区で考える」と題してPPI所長三好の講演が予定されています。

編集後記

小泉政権の誕生以来、建築設計やまちづくり、都市計画の分野は大きく変化してきています。公共事業の計画見直しや中止、事業費の削減、公益法人改革、都市再生特別措置法の制定、構造改革特区構想の立案などなど。これらの政策はその趣旨とは裏腹に建設業界に様々な問題を生じさせていることも事実です。しかし、広く社会全体から見れば社会経済潮流に沿って当然求められる次世代への改革であり、これまでにない大きな時代の変革期を迎えているとも考えられます。

このように大きく時代が変化する中で、PPIはかねてから“住民参加”という次世代型手法で様々なプロジェクトに関わっています。豊中市の岡町まちづくり、大阪市の野田地区まちづくり、八尾市営大正住宅建替協議会は、住民・行政・我々の三位一体で進めている一例です。最近では公的な施設をNPOが運営する例も出てきています。このような新しい流れやニーズを捉えつつ、様々なまちづくりに貢献していきたいと考えています。（柴田）

編集・発行

(株)PPI計画・設計研究所
〒540-0021 大阪府中央区大手通2-2-2
トーンアップビル7F
TEL 06-6949-0901 FAX 06-6949-0902
E-mail: ppi-osaka@pop07.odn.ne.jp
URL: http://www7.airnet.ne.jp/ppi/
2002.10.より下記でも御覧いただける予定です。
URL: http://www.ppi-osaka.com
(ホームページ上でもP-voiceが御覧になれます)
発行責任者: 三好庸隆
編集担当者: 柴田明宏

はじめに - ソフトを育むハードを!

我々建築、都市計画・都市環境デザインの分野においても、単に作る事が善という価値観から、循環型社会・人口減少社会などのパラダイムを背景に「何にむかって、どのように何を構築しようとしているのか」という思想、あるいは仕事への取り組み方が強く求められていると思います。私の事務所は、比較的「川上」の仕事に相当します都市計画・都市環境デザインから、いわばその内容の実体化といえます「川下」の建築計画・設計までを射程内に入れ、先の考え方に留意しつつ、仕事に取り組んでおります。具体的な業務としましては、例えば大規模都市開発の開発コンセプト・仕掛け・仕組みについての検討や、木造密集市街地におけるまちづくり、老朽化した市営住宅の居住者参加型建替事業の推進・設計、関西での最後の大規模ニュータウン開発となるであろう国際文化公園都市「彩都」における集合住宅街区、戸建街区の企画・計画・設計などを行っております。これらの仕事は多くの場合、計画・設計条件を考えることから仕事はスタートしますと共に、中には建設した後どのように良好なコミュニティを育てていくか、といった比較的ソフトな内容も求められています。空間も、単にかっこいいハードを作るといった感覚ではなく、「ソフトを育むハードとは何か」といった視点で設計していくことが求められていますし、大切なことと思っています。



エベネザー・ハワードが住んだ住居前にて（レッチワース・ガーデンシティ：2002年7月）

2002年 秋・冬 所長 三好 庸隆

Project report 1: 阪急彩都ビレッジ5

2004年春に街びらきを迎える国際文化公園都市「彩都」。その街びらきにあわせて、あたらしい生活が始まる、阪急電鉄が事業主体の集合住宅計画に取り組んでいます。2.5haの敷地に440戸余りの住宅と共用施設、附帯施設を自然環境に恵まれた郊外に如何に計画するか?また初期開発段階での住宅供給に如何にインセンティブを与えるのか?“美しき庭園街区”をテーマとし、ハード面だけでなくソフト面の提案を織り交ぜ、郊外丘陵部開発の新しい指標となるべく現在、実施設計から着工へのステップを踏み出そうとしているところです。2年後の春、郊外での生活支援ソフト付の新しい形の集合住宅をご覧いただけたと思います。

<プロジェクトデータ>

事業主体: 阪急電鉄株式会社
名称: 阪急彩都・ビレッジ5
所在地: 国際文化公園都市(茨木市域内)
敷地面積: 約25,460㎡
延床面積: 約61,400㎡(全444戸)

マスタープランナー: 三好庸隆
基本構想・基本計画: PPI計画・設計研究所
実施設計・施工: 大成建設
外構実施設計: PPI計画・設計研究所



外構計画図

(PPI担当: 三好、内田、内仲、近藤他)

Project report 2 : 八尾市菅大正住宅 その後

～活発な議論が協議会で進行中～

建替え協議会を始めてから約1ヵ年がたちました。当初のワークショップ活動は不慣れなためごちないものでしたが、最近では毎回のテーマに対して参加者の皆さんは自ら積極的に意見や考えを交換し合い、相互理解を基に皆で方向性を見出してゆくことが活発に行われています。今年度はこれまで、建替え後の間取りについてのワークショップと、事例視察会を行いました。事例視察会は梅雨空の中、京都府営1団地と大阪府営2団地を視察し、団地を管理している行政のご担当者及び自治会会長さんにもお話を伺うことができました。住戸内部も視

察することができ、建替え後の住宅の具体的なイメージを描くことができました。今後の協議会では、土地利用計画や住棟配置計画、共用施設計画について皆で検討し、建替え基本構想をまとめる予定です。



ワークショップの様子

(P P I 担当 : 三好、柴田、川村)

Project report 3 : コージースクエア御影 その後

<各戸が独自性を持つすまいの集まり>として、P-voice vol.3で紹介しました、急斜面地に建つ集合住宅<コージースクエア御影>。急斜面での予想以上の難工事ということで、工事が少し遅れ気味ですが、関係者一同必死の努力で着々と完成に向かっていきます。なお、設計は第1種低層住宅専用地域、風致地区、宅地造成規制区域の中で、平均地盤と高さ制限と緑地率との格闘の連続でしたが、その結果、容積率80%に対して、傾斜地の特性を生かし「住宅地下室の容積率不算入の特例」を適用することで、住戸専有床面積合計だけでも約94%という高効率の計画となっています。

<プロジェクトデータ>

事業主体：株式会社 興人

名称：コージースクエア御影

所在地：神戸市東灘区住吉山手4丁目

敷地面積：2,451.65㎡

延床面積：3,349.97㎡(全22邸)



模型写真

(P P I 担当 : 三好、内田、桑原、田中、徳田、目加田)

Project report 4 : 東浦町健康増進施設いよいよ着工へ

2002年4月、兵庫県東浦町より、健康増進施設の提案プロポーザルへの参加依頼がありました。我々が計画・設計しました<貝塚・そぶら・ほの字の里>(山村宿泊体験施設で温泉施設を含む。入込み客数16万人位)が評価され、エントリーの声がかかったようです。指名11社の設計競技でしたが、我々が一等当選し、その後大変厳しいスケジュールの中、計画・設計を進め、9月初現在、ほぼ実施設計を終えたところ。延床面積約1,000㎡の温泉を利用した町民皆様方のための健康増進施設で、2003年初夏にオープン予定です。お楽しみに!!

<プロジェクトデータ>

事業主体：兵庫県津名郡東浦町

敷地面積：約2,500㎡

延床面積：約1,000㎡

(P P I 担当 : 三好、内田、近藤、鶴野、目加田他)

外観パース

Project report 5 : 新長田再開発計画

J R 新長田駅の南側・国道2号線を越えたところで、神戸市による再開発がすすめられています。この地区は震災前より神戸市の西部副都心として位置付けられ整備がすすめられておりましたが、震災により甚大な被害を受けたため、震災復興再開発事業により魅力のある商業施設の整備、良質な住宅供給等をすすめながら地域の活性化、安全で安心な副都心にふさわしいまちづくりを目指し、すすめられています。

Project report 6 : 尼崎・K邸

高等学校の書道の先生の御自宅で、2003年春に中学生となる娘さんとの3人家族です。敷地面積約100㎡、延床面積110.62㎡の木造2階建て、エントランス空間を兼ねて囲まれた中庭、ロフト空間の仕事場、高齢者との同居、バリアフリー、床下からの涼しい風を室内に取り込むなどのきめ細かい環境共生技術の導入などをテーマとした、魅力的な、コンパクトハウスになりそうです。敷地はP P I 所長三好の自宅の近くで、現場監理は所長自らとなりそうです。



1階平面図



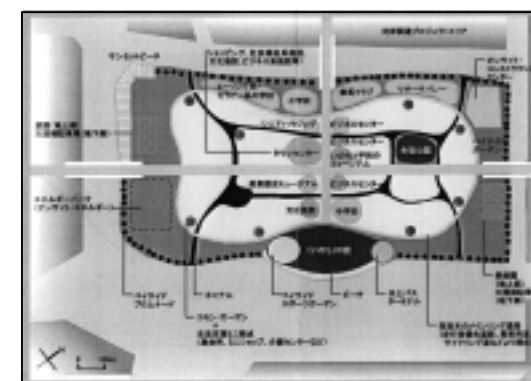
断面図

(P P I 担当 : 三好、鶴野)

トピックス

《1》「大阪湾ベイエリア“まちづくりプラン”」においてオーディエンス賞受賞

去る3月に(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構の主催で行われた「大阪湾ベイエリア“まちづくりプラン”アイデア募集」において、P P I は環境共生と定期借地によるまちづくりをテーマとした“<いのち>育む、海の庭園都市(シーサイド・ガーデン・シティ)”を提案し、「オーディエンス賞・いきものの街部門」を受賞することができました。表彰式では大阪大学名誉教授 故紙野桂人先生より表彰状を授与され、定期借地によるまちづくり手法についてお褒めの言葉を頂きました。



提案図(抜粋)

《2》日本建築学会・地域施設計画研究シンポジウムで発表

P P I 所長三好がかねてより自主研究として行ってきました、郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する研究成果を、2002年7月18日、地域施設計画研究シンポジウムにおいて発表しました。「三田市ウディタウン等における居留意識構造の分析 - 郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究」と題するもので、御関心のある方はP P I までお問い合わせください。抜き刷りを進呈させていただきます。

《3》神戸芸術工科大学での授業始まる

P P I 所長三好は、現在大阪大学からの依頼で地球総合学科建築コース3年の授業を講師として担当していますが、今年度より加えて、神戸芸術工科大学からの依頼で環境デザイン学科の授業も講師として一部受け持つこととなりました。